



六ヶ所再処理工場

グリーンコープも呼びかけ団体である『六ヶ所再処理工場』に反対し放射能汚染を阻止する全国ネットワーク(以下阻止ネット)は、2010年9月4日東京ウィメンズプラザホールにて、六ヶ所再処理工場の稼働中止を求める集会を開催しました。

集会では「放射能自主測定の結果と六ヶ所再処理工場の今」の報告、映画「六ヶ所村通信No.4」の上映や鎌仲ひとみさん、菊川慶子さんの対談がありました。会場には約260人(グリーンコープからは各単協の組合員他13人)が参加しました。

ストップ再処理

海に空に放射能を捨てないで!

無謀な核燃料サイクル計画

エネルギー資源輸入国である日本は、準国産エネルギー資源の確保を名目に使用済み核燃料を再使用する核燃料サイクル計画を1967年に策定。六ヶ所再処理工場は、政策に基づいて作られた使用済み核燃料からプルトニウムやウランを取り出し再利用するための工場だ。2006年3月にアクティブ試験が開始されたが、最終段階のガラス溶融炉などでトラブルが続発している。当初予定されていた本格稼働は2007年。2010年7月時点、稼働の見込みはたっていないにもかかわらず10月に完工と発表された(集会当日、完工は約2年延期という新聞報道)。しかし、フランスなどで再処理されたプルトニウムは大量に日本に戻されており、これを利用してMOX燃料によるプルスーマルや高速増殖炉原型炉「もんじゅ」の運転再開など、核

燃料サイクル計画全体の進捗は加速している。

六ヶ所再処理工場では、1年間で約800トンの使用済み核燃料から約8トンのプルトニウムを分離する計画。その際、原子力発電所が1年間で放出する放射能を1日で放出する。環境や人への影響、海産物や農産物の汚染、施設内で捕捉できるにもかかわらず海中に放出されるクリプトンやトリチウムなどの放射性物質による広範囲な海域の汚染、施設直下に活断層があり、耐震性には大きな不安がある、など六ヶ所再処理工場の問題は大きい。

六ヶ所再処理工場周辺環境調査報告

青森県や日本原燃(株)では、再処理工場周辺の環境調査を行い、測定結果を公表している。これまでの報告で、問題はないとされているが、いくつかの測定結果には再処理工場からの影響が現れている。阻止ネットでは、200

8年度から放射能被害を受ける農・水産の生産者と共に活動するためにも必要なことである、六ヶ所再処理工場周辺の放射能測定を自主的に行っている。2009年度は、アクティブ試験のトラブルで工場の操業はほぼ停止しており、放射能の環境への放出量も少なくなっている。測定核種は、炭素14、トリチウム、プルトニウム、セシウムでいずれも問題のない数値。六ヶ所再処理工場に由来する環境汚染は認められていない。しかし、アクティブ試験を活発に実施していた2008年度の環境調査が公表されつつあり、(財)環境科学技術研究所の報告では、トリチウムや放射性ヨウ素129による環境汚染が確実に起きていることが示されている。この放射性ヨウ素は自然放射線の量に比べて極めて少ないので健康には影響しないとされている。しかし、今後も放射能の放出が続ければ何万年も消えることなく環境中に蓄積され、食品からも検出されるようになることは火を見るより明らか。蓄積された放射能を消すことは不可能だ。

六ヶ所再処理工場がアクティブ試験で2010年4月末現在までに放出した放射能は海洋中に総計2200兆ベクレル、大気中に8京1000兆ベクレル。本格稼働がはじまれば、当然にこの数値をはるかに超える量が放出される。本格稼働の中止を今後も強く求めていく必要がある。



熱心に話を聞く会場いっぱいの参加者



「六ヶ所再処理工場の完工と言われている2年後には、本格稼働を阻止しよう」と閉会の挨拶をするグリーンコープ共同体代表理事田中裕子さん

一人ひとりの行動で、自然エネルギーへの転換を

菊川慶子さん

1990年に六ヶ所村にUターン。以来反核運動に関わる。「花とハーブの里」を主宰し「核然に頼らない村作り」を呼びかけて、活動を続けている



鎌仲ひとみさん

映画「六ヶ所村ラプソディー」、「ミツバチの羽音と地球の回転」の監督。原発問題などを啓発している。明治大学などの非常勤講師

六ヶ所村をオランダのようなチューリップと風車の町にしたいと思って、1992年からまず自分にできるチューリップの栽培をはじめた。六ヶ所再処理工場など原子力産業に頼らず、経済が成り立つ村作りが夢だ。ささやかな地場産業として「花とハーブの里」を主宰し、毎年「チューリップまつり」を開いている。残念ながら今年は春が寒く、チューリップが開かなかつた。全国の人に出資してもらい合同会社でジャム工場の操業を実現することができ、村の人3人に働いてもらうこともできた。

自宅の電気を自然エネルギーで賄いたいと思っている。自分のお金はそうしたことにすべて使いたい。昨年、自然エネルギー学校を開いて手作りのソーラーパネルと小さな風車を作り、常夜灯の電力になっている。今年も第2回自然エネルギー学校を開こうと思っている。手作りのソーラーパネルや小型の風車で発電量を増やしたい。隣が牛も飼っているし、自宅の汲み取り式のトイレなどを利用して、小さなバイオマスプラントも実現できたらなど次々としていきたいことが…。

夢は日本全体が自然エネルギーにシフトしていくこと。自然エネルギー学校に若い人にもっと来てもらいたい。六ヶ所村の問題は、消費者一人ひとりの問題。自分が今できることを考えて欲しい。

外国からは日本はエネルギー政策においては、ガラバゴスと言われている。電力の自由化もすすんでおらず、あたかも自然エネルギー阻止法があるようだ。原子力での電力に反対と言うと、「それじゃあなたは、ロウソクで暮らすの」という反論が必ずある。スウェーデンでは、ほとんどの公共交通機関がバイオガスを使用。そういうところでは家畜の糞尿はエネルギー資源として大きな価値がある。六ヶ所には189基の風力発電用の風車が立っている。この風力発電の電気は東京の新丸ビルの電気エネルギーとして使われている。僻地の自然や暮らしを破壊して都会の電力が賄われている実態を変えていく取り組みも少しずつはじまっている。『10年後には自然エネルギーを扱っていないと企業として生き残っていけない』と仲介した石油会社の関係者も言う。六ヶ所の核燃施設建設のために毎年約50億円が使用された。その資金は我々の電気代に反映されているのだ。東京都では900億円かけて太陽の光と熱を有効に利用しようという太陽熱エネルギーのプロジェクトを作っている。にもかかわらず、核燃サイクルは推進され、今後原発を14基建設するという政府の方針だ。

自宅のアンペアを点検して、容量を下げることから実践してみよう。どんなことも一人ひとりの自覚と行動がスタートだ。

「六ヶ所再処理工場」に反対し放射能汚染を阻止する全国ネットワークとは、いのちと食べもの、自然環境を生産者とともに守るために、六ヶ所再処理工場の中止を求めて2007年に発足した。これまで署名活動、メッセージカードやマグネットシートの作成、頒布、集会やパレードなどに取り組み運動を続けてきた。